

☆障がいのある児童生徒などへの配慮 ～音楽編～



小学校学習指導要領解説音楽編・中学校学習指導要領解説音楽編に掲載されている内容をまとめました。
* 高等学校については、「芸術（音楽）編 音楽編」をご覧ください。

【小学校 音楽の配慮例】

1 音楽を形づくっている要素（リズム、速度、旋律、強弱、反復等）の

聴き取りが難しい場合



【10の視点^{*1}】から予想される困難さ

(例) ②聞こえにくさ ⑩注意の集中を持続することが苦手 *記憶に関する困難さ

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

要素に着目しやすくなるよう、音楽に合わせて一緒に拍を打ったり体を動かしたりするなどして、要素の表れ方を視覚化、動作化するなどの配慮をする。なお、動作化する際は、決められた動きのパターンを習得するような活動にならないよう留意する。

2 多くの声部が並列している楽譜など、情報量が多く、

自分がどこに注目したらよいのか混乱しやすい場合

【10の視点】から予想される困難さ

(例) ①見えにくさ ②聞こえにくさ ⑩注意の集中を持続することが苦手

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

拡大楽譜などを用いて声部を色分けしたり、リズムや旋律を部分的に取り出してカードにしたりするなど、視覚的に情報を整理するなどの配慮をする。



* 1：小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説の各教科等に示されている、学習活動を行う場合に生じる困難さ（①見えにくさ②聞こえにくさ③道具の操作の困難さ④移動上の制約⑤健康面や安全面での制約⑥発音のしにくさ⑦心理的な不安定⑧人間関係形成の困難さ⑨読み書きや計算等の困難さ⑩注意の集中を持続することが苦手）を整理して、当センターでは、【10の視点】として位置付けています。

【中学校 音楽の配慮例】

1 音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など）を知覚することが難しい場合

【10の視点】から予想される困難さ

(例) ①見えにくさ ②聞こえにくさ ⑩注意の集中を持続することが苦手

* 記憶に関する困難さ



<そのための指導の工夫の意図、手立て>

要素に着目しやすくできるように、音楽に合わせて一緒に拍を打ったり体を動かしたりするなどして、要素の表れ方を視覚化、動作化するなどの配慮をする。なお、動作化する際は、決められた動きのパターンを習得するような活動にならないよう留意する。

2 音楽を聴くことによって自分の内面に生まれる様々なイメージや感情を言語化することが難しい場合

【10の視点】から予想される困難さ

(例) ②聞こえにくさ * 言語活動の苦手さ



<そのための指導の工夫の意図、手立て>

表現したい言葉を思い出すきっかけとなるよう、イメージや感情を表す形容詞などのキーワードを示し、選択できるようにするなどの配慮をする。



障がいのある児童生徒などの学習において、教科等の目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえ、学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行うことがないように留意し、指導や手立てを工夫していくことが大切です。

“子どもの学力向上に責任を果たす！最大限に力を伸ばす！”

